



酷い暑さもようやく治まりはじめ、朝晩などはだいぶ過ごしやすくなってきました。コロナの感染者数も高止まりが続いていますが、季節の変わり目で体調を壊さないように気を付けましょう。

★トピックス～内視鏡検査は鼻から？口から？

最近では健康診断で行っていた、胃の検診をバリウム検査ではなくて、内視鏡で行うところも増えてきています。上部消化管、いわゆる食道・胃・十二指腸の内視鏡検査は、経口法が一般的ですが、10年以上前から経鼻内視鏡が広がってきました。今回は両方の内視鏡検査について比較してみたいと思います。

経鼻内視鏡とは（当院のお勧めです）

この内視鏡は、その直径（太さ）が6mm以下と細く、うどんくらいの太さです。そのため「細径胃内視鏡」とも呼ばれており、鼻からだけではなく口からも挿入できます。通常の内視鏡は一般的に使用されているものが9.8mmなので2/3以下の太さです。

有利な点：

太さだけではなく「嘔吐反射」が少ないことが大きな特徴です。内視鏡の到達経路が違うため、舌の奥で触ると嘔吐反射の原因となる部位に、触らないで食道にファイバーを挿入できます。食道に入る時の抵抗も少ないです。鎮静剤を使用しなくても検査が十分にできるため、鎮静剤を使用するリスクがありません。これは特に高齢者では心臓や肺の機能が低下していると、検査により体に負担がかかります。検査後30分経てば水分摂取が可能で、問題なければ食事も可能です。経口法であれば1時間は待たなければなりません。

不利な点：

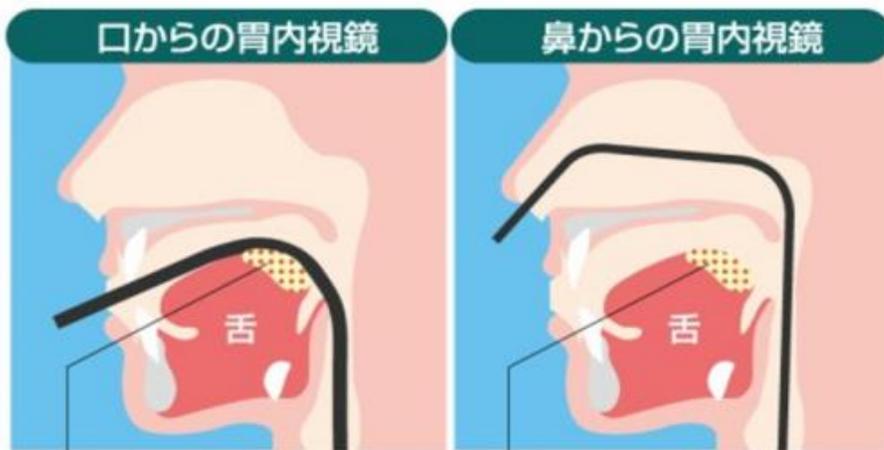
画像の解像度（鮮明度）が良くない。しかし最近では細径のものは、通常の内視鏡に劣らない画像になってきています。ただ拡大しすることはできません。内視鏡的な治療（早期がんの治療やポリープの切除など）はできません。組織の検査（生検）は可能です。

鎮静剤を使用するリスク

経鼻内視鏡を使用する場合は、鎮静剤は使用しません。経口内視鏡では嘔吐反射が強いことから、ほとんどの場合鎮静剤を使用します。鎮静剤は大きな手術をするときの全身麻酔とは違います。

- ①検査後車の運転が出来ません。
- ②使用する量によっては呼吸抑制を起こすことがある。
- ③検査終了後、1時間以上はベッド上で安静が必要、などがあります。

当院では経鼻内視鏡をお勧めしていますが、患者様のご要望により、経口から鎮静剤使用しての検査も可能です。気軽にご相談ください。



この部分にスコープが触れると、この部分に、スコープは触れにくい。吐き気を感じます。

受付時間について

午前 8:40～12:45まで 午後は14:45～17:45

となっておりますので、よろしくお願いたします。